

触媒懇談会ニュース

触媒学会シニア懇談会

クエート便り

イラクとサウジアラビアにはさまれ、その面積は四国と同じくらい、人口は226万人(2004年)であり、その他に多くの外国人労働者がいる。国土は真っ平らで山の姿はおろか丘の姿も見えない(クエートで一番高いところは海拔260mだそうである)。ただし、建物のないところはやせたヨモギのような植物がわずかに茂る砂漠で、街路樹にも給水用のホースが埋め込まれている。石油価格の高騰で入った莫大なオイルマネーのせいか、クエート市は建築ラッシュで建設用クレーンが林立し、不思議な形のビルが建設されている。



クエート市内の建設中のビル

私が滞在した目的は、Kuwait Institute for Scientific Research (KISR) の中の Petroleum Researches and Studies Center (PRSC) において触媒の活性劣化の講演と研究指導をすることである。研究所はクエートの首都であるクエート市の南に位置し、高速道路を使って40分くらいの

ところにある。周囲には3つの製油所を管理する石油会社(KNPC)をはじめとして石油企業が集合している。KISR とわが国の国際石油交流センター(JCCP)とは、長年にわたり交流があり、クエートでのセミナーの開催、日本側からの研究者・技術者の派遣、KISR の研究者の受け入れを行っている。今回の派遣もこのプログラムに基づいている。仕事の話は別にして、当地での生活について書くことにする。

クエートの国道の制限速度は、ハイウェイで120km/h、クエートの旧市街を除くと街中の道でも80km/hであり、多くが片側3車線である。この道をほとんど車間距離をとらずに走るのであるから、毎日のように交通事故を見る。事故車を現場に放置したままなので、事故の印象は強い(重大事故を起こした車のほうが放置期間が長いとのこと)。このような交通マナーの下では、とても日本人の手に負えず、運転手付きのレンタカーを借りるようにJCCPから指示される。

宿泊はKISRから自動車で15分くらいにあるホテルのStudioタイプというキッチンが付いた部屋で暮らしている。朝食はホテルの食堂でとるが、その他は自炊をしている。食料品の買出しは週に3回ほど出かける。Sultan Center というスーパーマーケットができ、年中営業しているので便利である。当然のことながら、アルコール類と豚肉製品はない。ノンアルコールビール、ノンアルコールシャンパンと言うのがあり、多少はアルコールを感じるとのことであった。その他に、魚市場が各地にあり、日本

で見たことのあるコチ、ヒラメ、鯛らしき魚が売っている。ただし、1匹売りなので、独り者には手が出せない。安いのは大きなエビで、跳ねているような新鮮なものが日本円で800円/kgで購入できる。高いのは、野菜と果物の類であるが、ほとんどが輸入品であるので当然かもしれない。日本米、カリフォルニア米は手に入らないが、オーストラリア米で我慢できる。

お金の単位はクエートディナール(KD)で、その下がフィルス(Fills)である。1KDが1000Fillsになる(1.000KDと書かれると、1000KDかと思う)。1KDは日本円で380円から400円くらいである。札は20、10、5、1、1/2、1/4KDの6種類で、硬貨は、100、50、10、5Fillsの4種類で、紙幣と硬貨を使いこなすには時間がかかった。最初のうちは買い物をするとコインがどんどん貯まっていた。最近は、硬貨を持った手を出しておく、店の人が勝手に取ってお釣りをくれる。



研究所の玄関にある石の案内板

日本との時差は6時間でほぼ日本とニューヨークの中間にある(クエートとニューヨークの時差は8時間)。6時間の時差のため、時計の針を180度右に動かせば日本時間となる。日本のテレビは、NHKの海外放送が見られる。最近は、インターネットにつなげば日本の情報はどこでも得られるの

で、浦島太郎になることはない。逆に日本の新聞をインターネットでよく読み、なおかつ現地の新聞も読むため、日本に住んでいるときよりも世界の中の日本について詳しくなる。

世界経済の激動は、クエートにも間違いなく影響を及ぼしている。クエート最大のGulf Bankがデリバティブの取引で大損害を出しその責任を取って総裁が辞任したこと、証券取引所には株安で怒った投資家が政府の無策を抗議したとのニュースが報道され、原油価格の低下により、このままでは国家予算が足りなくなると報じられている。また、OPECの原油減産のあおりで輸出量を5%削減すること。その割にはインフレが進み、今年物価上昇率は10%を超え、昨年2倍になると景気のよい話は聞こえてこない。世界経済の破綻がクエートの経済を苦しめているようである。特に、この国に働きに来ているインド人、エジプト人、フィリピン人からは、物価が上がったのに給料は上がらないと言う声が聞こえ、この先継続して仕事がもらえるか心配している。先に述べた建設中のビルが無事に建つのだろうか和他人ごとながら心配してしまう。

クエートは日本人にとって暮らしやすい国か、あるいは暮らしにくいのかについて考えてみよう。ただし、周囲にはほとんど店がなく、隔離されたようなホテルに暮らしている印象であるから、かなり偏っていることをご理解いただきたい。過ごしているホテルの部屋は結構広いので、日本のビジネスホテルのような閉塞感はないが、用心しないと冷房が効きすぎて寒い。一歩外に出れば海岸があり、気分転換もしやすい。ただし、目の前に原油積み出しの SHIPPING YARDがあるため、風向きでは匂いがひどい。

基本的な生活は、午前5時半から6時に起床しインターネットとメールをチェックする。7時にホテルの食堂で朝食をとり、

午前 8 時 25 分に自動車が迎えに来て、これに乗り込み、8 時 35 分から 40 分には研究所にいる。研究所では、パソコンを立ち上げて、次の講演のための準備、研究所のエンジニアに与えるための資料を整理し、JCCP から頼まれている仕事をこなす。時々、研究所内外の研究者の講演を聞きに出かけ、研究所の若い人から出される質問に答える。研究所の職員と同様に昼食抜きで午後 2 時半まで勤務をし、週に 3 回ほど帰り道に買い物をして帰宅する。持ち帰った仕事を続け、午後 6 時には NHK の「ニュースウオッチ 9」を見ながら、夕食の準備を始める。午後 8 時には入浴、洗濯を済ませ、ドバイあるいはアメリカのスポーツ放送をみて、午後 10 時にはベッドに入り、持参した時代小説を読みながら白川夜船の世界に入る。極めて健康的な生活である。

金曜日と土曜日が休日であるが、どちらか一日は日頃行わない大型衣類の洗濯やアイロン掛けのような家事に当てる。もう一日は、自動車でクエート市のショッピングセンターあるいは観光地に出かけている。観光地と言ってもクエートタワー、国立博物館そして科学館の水族館に行くと後はあまりない。ショッピングセンターは海岸通にかなり大きなモールができています。先に記した **Sultan center** を中心にして、ヨーロッパの有名ブランドのテナントが入り、フードコートがある世界標準型である。

外食は大体休日で、週に一度くらいである。クエート市には日本食レストランが 20 軒あり、過日その 2 軒に出かけたが、旅行ガイドに記載されたほどには味はよくない。何しろ、日本人が 80 人程度しかいない国であるから、客の大半はクエート人ということになる。味がクエート人向きになるのは仕方がない。多いのはインド料理店で、ウエイトレスが英語を話すので、辛い料理を注文する。日本食に比べて安い値段で食べられる。世界中どこでもある中国料理店はあまり見かけないのは、中国人が少な

いためであろう。このような生活を続ける限り、住みにくいと言う印象はない。

ところ変われば品変わるので驚いたことがいくつかある。発泡スチレンのカップにコーヒーを入れておくと、周りから少しずつ漏れてくること。コーヒーや紅茶を攪拌するプラスチックのスプーンがかき回している間に熱で曲がってしまうこと。スーパーの野菜は、売れるまでそのまま放置してあること。1 ヶ月前に見た中国産の栗がまだ売っている。ただし、肉類は包装した月日と賞味期間が記載されているが野菜はそんなことはない。よく気をつけないと傷のあるジャガイモを買うことになる。野菜はダンボールの箱に包装されたものもあるが基本は量り売りであり、一人用には便利なシステムである。



クエートのハイウェイ

ホテルのテレビは 60 チャンネルある。世界中に放送されている CNN, BBC をはじめアルジャジーラも見ることができるが、アラビア文字は記号として見えない。スポーツ放送で盛んに放送されるのはサッカーの試合である。イギリス、ドイツ、スペイン、イタリアのゲームが見られる。もちろん、地元のゲームも放送されているが、チーム名がアラビア語であるのでどこどこが戦っているのかが分からない。先日は、ガンバ大阪とアデレードユナイテッドの試

合が最初から最後まで放送されていた。ただし、録画であったので、結果は分かっていた。その他に、NFL, NHL が時々放送され、ゴルフは毎週やっている。野球は、ワールドシリーズだけであった。日本でほとんど放送されないで、当地で多いのはハンドボールとビリヤードである。ハンドボールはともかく、ビリヤードは一度もやったことがないので、ルールが分からない。



クエート唯一の観光地(クエートタワー)

昨年は雨がまったく降らなかったそうだが、11月に入り何回か雨が降った。一回は雷がなり、豪雨があったが、側溝などというしゃれたものはないので、道路が水浸しになり、水煙の中を走った。雨が多かったせいか、砂漠の端のほうは緑色に変わっている。降雨を待つて若草が萌え出したようである。自然の力はすごいものだと感心しながら眺めている。その代りに小さなハエが大量発生して、油断するとコーヒーカップに侵入する。人の顔を眺め、自然を眺めながらまあ楽しく暮らしている。

(2008年11月26日 クエートにて
高橋 武重)

シニア懇談会 News

今回は元鹿児島大学の高橋先生がクエートから寄稿してくださいました。次回は元触媒学会常務理事の出口さんが書いてくださいます。

名称募集

触媒学会シニア懇談会の正式名称を募集しています。〆切は1月末です。是非、ご応募下さい。下記シニア懇談会事務局までお知らせください。

触媒学会からのお知らせ

- 工業触媒研究会フォーラムが1月21日日本化学会館で開催されます。
- 第4回触媒科学国際シンポジウムが千葉県木更津市で開催されます。参加費は無料です。事前登録が必要です。
- 2009年3月30(月)～31日(火)
- 春の触媒討論会は埼玉大学で行われます。ご存知の通りシニア会員は討論会の参加登録費は無料ですので是非ご参加ください。日程は2009年3月30日(月), 31日(火)です。
- 討論会会期中昼弁当を囲んでシニア懇談会を開催する予定です。詳細は追ってお知らせします。是非、ご参加ください。

シニア懇談会事務局

連絡先 takashiro_muroi@yahoo.co.jp
FAX 029-873-8844